



<ひとこと> 夏祭り、応援に来ている消防車に興奮をしている男の子に、ニッコリ(笑)

## 「自立支援協議会」!?

～作る必要があるからではなく、あり方にこそ有用な議論を!～

昨年度から三市で開催している協議会の様子を垣間見える程度(?)にその都度お知らせしています。

\*\*\*

二年目の今年度は柏市が中核市になったこともあり、今後どのようなしていくか(今まで通り三市合同か、あるいはそれぞれの市で開催か)を一年かけて検討していくことにしていました。その議論は今回の協議会でそうでした。あと少し意見交換、次回(あと二回の開催)から本格的に検討することになります。

自立支援協議会は市町村ごとに設置することが基本で、事情により合同設置も可とされています。なぜこの地で三市での開催となったかは、三市が何回か集まって検討・論議した結果だったので、自立支援協議会そのものの役割が今ひとつやってみないとわからないのでやりながら検討していこうということでもありました。

しかし最近、「自立支援協議会が推薦し」とか「自立支援協議会で検討し」、などが国・県から増えてくること予測されます。

今後求められる役割から考えると困難事例の検討を主にした構成メンバー(機関の代表の集まりではない)では荷が重いという意見もあります。今までの試行の上で結論を出す時期に差しかかっています。

(下)



これからでも遅くない! 作る必要からではなく自立支援協議会のあり方にこそ有用な議論があることを!

\*\*\*

## 地域でルート〜ク 第4走者



『身近な相談相手』このテーマで原稿を依頼され、あらためて自分がどのような「相談」をしているか考える機会をいただきました。

\*\*\*

通所授産施設で働くなかで受ける相談にはいろいろなものがあります。

簡単なものでは日課や作業の説明。難解なものでは、人間関係のトラブルなどが相談として寄せられます。自分が相談を受ける際に気をつけていることは常に自分の身に置き換えて考え、明快な意見を返すことです。

自分が経験していることであれば、そのときに思ったことや感じたことを伝えることができますが、そうでない場合には答えに迷いが生じます。

### 支援中の口癖は「男たるもの」

日常支援中の口癖は「男たるもの」で、それを前面に押し出しているとほんの少しの迷いが天敵になります。

常に「自分なら」と明快に答えるスタイルでは、動揺し明快さに欠けてしまったとき相手に不安を与える要素となります。

相手に不安を与えず、納得してもらえようように意見を伝えることはそれだけ多くの実体験が必要だと改めて感じました。と、意気揚々と原稿を書き終えたとき、隣で妻がチラッとこちらを見て一言。

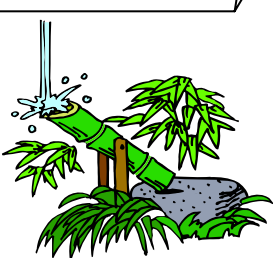
「わかっているねえ」「聞いて欲しいだけのときもあるのに」と。僕に動揺が生じたのはいうまでもありません。

社会福祉法人かたくり会  
あすか園 支援員 越智信吾

## 今月の一句

汗っかき、  
痩せたと思う  
プラス思考

涼風



(みなさまからの投稿募集しています)



## 子育てにマニュアルはあるの??

NPO法人 教育支援三アイの会 7/19(水)14:00~16:00

しつけの話が出て、しつけと言うと常識的なふるまいができるように、厳しくしたりというイメージでしたが、講演会では「しつけは親の価値観を伝えることで、しつけの中で親の想いや価値観を伝える営みだ」という話を聞いて、そう言われてみれば、しつけも親それぞれのやり方があって、何を子どもに身につけてもらいたいかによって違うなと思いました。どうしても一般的な常識をもつように育てていないといけなような感覚にとらわれがちですが、親も完璧なわけでもないし、子を育てることを通して、自分がどのように育てられたか、人として生きていくにはということを知りたくなるのではないかと思います。

講演会の中で、「育児、子育てにはもう遅いという年齢はなく、まずは子どもの横に座ること。それは、自分もゼロになって子どもの横に座ることから始める」という言葉が印象的で、言葉で伝えることも大事だが、ただ隣にいて伝わるものもあるんだなと思いました。



講師: 藪中征代 様

子育てにとって良いとこ取りの教育は難しく、いかに今ある子育ての情報を取捨選択しながら、自分らしい子どもとの関わり方を見つけていくのが大切なんだということがわかりました。

## おしゃべり会

7/13(日)10:00~



■お問い合わせは、塩原、青柳まで  
04-7165-8707(あいネット)

企画する人、参加する人という関係だけに、ならないようにと心がけています。少しずつ、ほんの少しずつ、みんなで経験を積み重ねていければと思います。

これまでの4, 5, 6月の活動の振り返りをしました。「大勢でボーリングをしたのは、初めて」「人数が増えてよかった」「自分でやろうとした事なのに、発案した人が楽しめていないのはなぜ?」など、ドキッとするような意見もありました。

次回、夏真っ盛り、パーベキューを予定しています。

③手段

手段	なし	身体		知的	発達	精神	高次脳	知的障がいと「重複」			合計
		肢体	視聴覚					精神	身体	高次脳	
電話	54	61	11	72	4	112	10	15	10	0	349
訪問	27	16	8	21	0	4	1	0	1	0	78
来所	4	1	0	8	1	16	1	0	0	0	31
メール	7	2	0	2	1	2	0	242	0	0	256
FAX	2	1	2	2	0	2	0	0	0	0	7
小計	94	81	19	105	6	136	12	257	11	0	721
合計	94	100		105	6	136	12	268			721

平成20年7月あいネット実績報告

左図は、相談実績表の抜粋です。ここでは、延べ件数を掲載しています。  
相談者の実数は「九十九」件です。



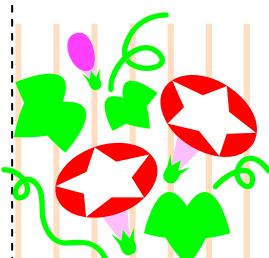
平成二十年七月十日(木)、柏市教育福祉会館二階大会議室で、よつば会の学習会がありました。

佐藤文昭氏(国立精神・神経センターACTIJケースマネージャー)を講師に「訪問により精神の医療・福祉を支えるACTの実際」というお話を聞きました。

ACT (Assertive Community Treatment)とは、包括型地域生活支援プログラムで重い精神障害をもつ精神医療の頻回利用者ができる限り安定した質の高い生活を地域でくり続けられるように支援するものです。

国立精神・神経センターのACTIJは、厚生労働省のモデル事業として行い、現在は訪問看護と補助金で行っています。

ACTでは治療とQOL(生活の質)の向上の両方を行い、病状がよくなると医療より福祉への支援の部分の比重が増えてくるということです。支援は生活保護申請同行や本人の病状が重い場合、本人の気持ちの安定、コミュニケーションの一つの手段としてマツサージを行ったりなど、その人に応じて様々な対応をしています。



よつば会 学習会 「訪問により精神の医療・福祉を支えるACTの実際」に参加して



講師:佐藤文昭 様

この活動は1対1で行う活動が多いため、ミーティングでの情報共有はきちんとい、カンファレンスも細かい部分まで検討し、利用する人ももちろん、支援する側もバーンアウトしないようにしています。関わっていく中では、本人の楽しみを引き出したり、こちらの限界を意識しながら関わっていること、このことはどんな機関でも常に共通の課題であるのではないかなと思います。

学習会に参加した人達はこういうのが柏でもあったら〜という声が多々ありました。

おしらせ

◇こちらのコーナーへ掲載希望の方は、あいネット(04-7165-8707)までご連絡ください◇

講演名	日時	場所	費用	申込み	問合せ先他
◆ 家族への援助・・・その方法 ～医療・福祉・教育現場での SST の活用～ 演題:訪問により精神の医療・福祉を支える ACT の実際 講師:土屋 徹氏	8月27日(水) 10:00 ～15:00	たんぼぼセンター (柏市柏下135-1)	会員 3000円 非会員 5000円	FAX、郵送、メールで申し込み。氏名、住所、連絡先、弁当注文(800円)の有無を記入 (申込用紙あり、必要な方はあいネットまでご連絡ください。)	NPO 法人 こころの健康を創造する会 Creation HIT 〒270-0163 流山市南流山 1-14-17 ひだクリニック内 SST 研修会担当 宇田川 FAX 04-7149-3527 メール <a href="mailto:soleiyunokai@hotmail.co.jp">soleiyunokai@hotmail.co.jp</a>
◆ 第6回 脊髄損傷リハビリテーション講習会 ～脊髄損傷者の豊かな生活を目指して～ 講演1「移動支援の現状と課題」 講師:藤井直人氏 講演2「生活を広げるための住環境」 講師:三浦匡史氏	9月6日(土) 13:00 ～16:00	千葉市ハーモニアプラザ女性センター3階 (千葉市中央区千葉寺町1208-2)	無料	郵便、FAX、メールで申込。(氏名、連絡先、当日交通手段、関係者区分を記入) 申込切:8月29日 定員 180名	主催:千葉県千葉リハビリテーションセンター 問い合わせ・申込先 〒266-0005 千葉市緑区誉田町 1 丁目 45 番 2 千葉県千葉リハビリテーションセンター 地域連携部地域支援室 でんわ 043-291-1831 FAX 043(291)1847 メール <a href="mailto:sonpo@chiba-reha.jp">sonpo@chiba-reha.jp</a>
◆ 障害者差別の相談窓口が開設されました。	毎週水曜日 9:00 ～12:00	教育福祉会館1階相談室	無料	不要	千葉県障害福祉課 でんわ 043-223-2935 FAX 043-222-4133 身体障害者福祉センター でんわ/FAX 04-7163-9353

※第四次千葉県障害者計画策定のための東葛地域タウンミーティング～誰でも、ありのままに自分らしく地域で生きる～開催のお知らせと開催協力(一緒に実行委員または協賛者)のお願いを同封させていただきましたので、是非一読いただければと思います。皆さんのお力をお貸し下さい。よろしくお願いいたします。